

今年は本当に暑い夏でした。群馬から神戸に移り、「なんて関西は暑いんだ」と関西を悪者にしていましたが、関西の人にとってもこの夏の暑さは特別とのことでした。どうやらわれわれが想像する以上に、地球の温暖化は深刻なようです。先日、映画「不都合な真実」に出演しているアル・ゴア元アメリカ副大統領が、地球温暖化に対する活動が評価され、ノーベル平和賞を受賞しました。

本号の特集は、編集同人からも希望の多かった「メタボリックシンドローム」を取り上げました。来年4月より特定健診等の義務化が実施されます。しかし、残念なことに、「食生活・運動に関する対象者の支援計画に基づく実践的指導」を行う職種に、理学療法士が明記されていません。

最近、私が愛する理学療法とは何であるのか、よく考えることがあります。昭和40年制定の理学療法士法によると、「理学療法とは、身体に障害のあるものに対して、主としてその基本的動作能力に回復を図るため、治療体操その他の運動を行わせ、及び電気刺激、マッサージ、温熱その他の物理的手段を加える治療法をいう」とされています。一方、世界101か国27万人が加盟する世界理学療法連盟の記述、The nature of Physical Therapy (理学療法の本質)によると、「理学療法とは健康増進や予防、治療、リハビリテーションを通じて人間の活動の潜在能力を最大限に引き出すこと (Physical therapy is concerned with identifying and maximising movement potential, within the spheres of promotion, prevention, treatment and rehabilitation)」とあります。日本は国民総生産世界第2位の経済大国にもかかわらず、理学療法に関しては知らず知らずのうちに狭い範囲での活動を強いられてしまっているようですが、理学療法士は、脳血管疾患や心疾患などを発症した患者に対しては、身体機能や日常生活活動の回復に加えて、疾患の悪化や再発予防のための指導、メタボリックシンドロームへの対応を通して、対象者のさらなる健康増進にも責任を持つ必要があると思います。

10月14日の読売新聞総合面に、「メタボ健診 医療費減量疑問」という記事が掲載されていました。メタボリックシンドロームはわれわれの将来を大きく変える金の卵になるかもしれませんが、流行に左右されて、理学療法士の本質を失ってはならないと思います。まずは、目の前にいるメタボリックシンドロームを持つ患者に、疾患管理のための指導を丁寧に行い、現疾患の再発を予防し、医療費を抑制するという結果を出すことが重要だと思います。

今や小学校2年生のわが息子まで「メタボ」という言葉を使うようになりました。各種議論の多い「メタボリックシンドローム」という言葉は、健康を守る上での内臓脂肪を減らすことの意義や、生活習慣改善の大切さに注意を喚起するという点で効果を発揮しました。理学療法士に対しても、身体機能の回復に加えて、疾患管理のための指導の必要性を喚起しているのだと思います。

自分のお腹周りの「不都合な真実」をさすりながら、特集「メタボリックシンドロームと理学療法」が理学療法士の将来に明るい兆しを与える一助となることを期待し、編集後記としたいと思います。

(高橋哲也)

理学療法ジャーナル

(第41巻 第11号)

発 行 株式会社 医学書院

代 表 者 金原 優

2007年11月15日発行(毎月1回15日発行) ☎ 113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

電話 本誌編集室直通(03)3817-5704

定価 1,785 円(本体 1,700 円+税 5%)

(担当: 松田・吉永・鹿嶋・山崎)

販売部直通(03)3817-5659・5660

広告室直通(03)3817-5696

{ 2007 年年ぎめ予約購読料 20,880 円
(全 12 号、配送料弊社負担) }

ファクシミリ(03)3815-7802

E-mail: ptj@igaku-shoin. co. jp

振替口座 00170-9-96693 番

Web http://www. igaku-shoin. co. jp/mag/ptj/

印刷所 三 報 社 印 刷(株) ☎(03)3637-0005

広告申込所 (株)医薬広告社 ☎(03)3814-1971

・ Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2007, Printed in Japan

・ 本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有しています。

・ JICLS <(株)日本著作出版権管理システム委託出版物>

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(電話 03-3817-5670, FAX 03-3815-8199)の許諾を得てください。

●編集顧問●

安 藤 徳 彦
上 田 敏
大 川 弥 生
福 屋 靖 子
横 山 巖

(五十音順、以下同じ)

●編集委員●

網 本 和
内 山 靖
高 橋 哲 也
高 橋 正 明
鶴 見 隆 正
永 富 史 子
奈 良 勲
吉 尾 雅 春

●編集同人●

伊 藤 俊 一
伊 藤 義 広
伊 橋 光 二
今 川 忠 男
上 田 陽 之
大 峯 三 郎
岡 峯 哲 夫
岡 本 慎 哉
金 谷 さ と み
小 塚 直 樹
日 下 隆 一
工 藤 俊 輔
酒 井 桂 太
佐々木 伸 一
佐 藤 秀 一
澤 田 三 津 子
関 屋 昇
高 口 光 子
富 樫 誠 二
富 田 昌 夫
長 澤 弘 弘
仲 貴 基
中 村 春 基
丹 羽 義 明
濱 出 茂 治
備 酒 伸 彦
福 井 勉
福 田 恵 美 子
二 木 淑 子
星 文 彦
前 田 哲 男
牧 田 光 代
丸 田 和 夫
丸 山 仁 司
諸 橋 勇
山 田 英 司
横 山 有 里